アンダーコート　Undercoat

Press Release

Ministry of Culture and National Heritage
Republic of Poland

Manggha Museum
of Japanese
Art and Technology

姫路市立美術館
Himeji City Museum of Art

開催概要

ポーランドで唯一の日本文化を紹介する国立博物館である日本美術・技術博物館 Manggha と姫路市立美術館は、2024 年に連携協定を締結し、両地域の芸術文化の交流促進を図っていくこととなりました。

この度、その連携第 1 弾の事業として、現代美術家ボヴニクの写真作品展「アンダーコート（Undercoat）」を開催いたします。ポーランド出身のボヴニク（1977 年～）は、大判写真を用いて歴史的な静物画や風俗画、1940 年代のアメリカ映画の美学などの古典的な図像に着想を得て、作品を制作しています。また、「リバース（Reverse）」シリーズでは、博物館のコレクションとなっている衣服を裏返すという行為に焦点を当て、しばしば見落とされたり、存在しなかったりする「もうひとつの側面」を取り上げています。裏側に隠された痕跡をあらわにすることで既成の歴史概念に疑問を呈し、新たな真実を掘り起こしています。

会　場　｜　姫路市立美術館　企画展示室
会　期　｜　令和 7 年 10 月 4 日（土）
　　～10 月 13 日（月・祝）
観覧料　｜　無料
開館時間｜　午前 10 時～午後 5 時
　　（入場は午後 4 時 30 分まで）

休館日　｜　10 月 6 日（月）
主　催　｜　ポーランド文化省
　　日本美術・技術博物館 Manggha
共　催　｜　姫路市立美術館

同時開催

〈コレクションギャラリー〉
「日本文化の伝承と飛翔 ― 『本歌取り』をめぐって」

〈國富奎三コレクション室（常設展示）〉
「フランス近代絵画　モネからマティスまで」

関連イベント

最新情報は美術館公式 HP をご確認ください。

1　ポーランド×日本　アーティスト・トーク・セッション

登壇者：ボヴニク氏（本展出品作家）、東影智裕氏（現代美術家）、吉本直子氏（現代美術家）
日　時：10 月 4 日（土）14:00～15:30
場　所：姫路市立美術館　企画展示室
参加費：無料
定　員：50 名（先着順）

2　ワークショップ　PRIVATE REVERSE

講　師：ボヴニク氏（本展出品作家）
日　時：10 月 5 日（日）10:30～12:00 （受付は 10：00 から）
場　所：姫路市立美術館　2 階講堂
参加費：無料
定　員：15 名
持参するもの：ご自身の衣服 1 着（ジャケット、セーターなどのトップス）
申込方法：姫路市立美術館へメールで申し込み（先着順、定員に達し次第締切）
※メール送付先：gakugei@city.himeji.lg.jp
※メールには、イベント名、氏名・電話番号をご記載下さい。
※1 つのメールで複数人のお申込みはご家族の方に限らせていただきます。
　複数人での参加ご希望の方は、参加人数もご記載下さい。

アーティストプロフィール

ボヴニク〈BOWNIK〉

1977 年、ポーランド生まれの現代美術家。ウッチ国立映画大学講師。

ルブリンのマリー・キュリー・スクロドフスカ大学で哲学を、ポズナンの美術アカデミーで写真を学ぶ。8x10 のカメラを使って、被写体の構成要素を注意深く分解・再構築することで、メディアの人工性を検証し、伝統衣装の物質性と社会歴史的背景を探っている。

ボヴニクの作品は、ポズナニ国立美術館、ヴロツワフ現代美術館、クラクフ写真美術館、ハウス・マルセイユ写真美術館（アムステルダム）、ワルシャワ近代美術館、ワルシャワ国立図書館、ING コレクション（アムステルダム）、などに収蔵されている。

展覧会のみどころ

本展に出品される「リバース（Reverse）」は、裏返され縫い目や裏地があらわになった衣服を撮影した連作の写真作品です。衣服の裏側を被写体とする本シリーズは、衣服を文字通り「裏返し（リバース）」、日常生活や公にされている記録では見ることのできない側面を露わにするという発想に基づいています。

ボヴニクは 8×10 の大判フィルムカメラで衣服の裏側を撮影することで、衣服が内包する可視化されていない歴史や文化的記憶、個人の物語、写真による表象のあり方、そしてそれらを社会的記憶に定着させる制度の役割を問いかけ、長い歴史の中でファッションや工芸の領域に属してきた衣服の物語を新たな文脈で提示する試みに挑んでいます。

「リバース」の衣服には、普段着や祭服、民族衣装、軍服さらには映画衣装までが含まれています。本展の出品作品では、1918 年のポーランド独立回復における重要人物であるユゼフ・ピウスツキが着用していた軍服からシベリア・エニセイ地方の女性シャーマンの衣装まで、多種多様な衣服が裏返しの姿で、実物よりも大きく引きのばして現像されています。写された衣服たちは、かつてそれらを着用していた人々の身体から切り離されながらも、着用者たちが紡いだ語られざる歴史を、写真という媒体を通じて鑑賞者に語りかけます。

日本美術・技術博物館 Manggha について

日本美術・技術博物館 Manggha は、日本文化の普及に努めるポーランド唯一の国立機関です。欧州を代表する日本美術蒐集家であるフェリクス・"マンガ"・ヤシェンスキが寄贈した約 1,5000 点の日本美術を展示するクラクフ国立美術館分館として 1994 年に開館し、2005 年に独立した文化施設となりました。

同館設立の提唱者は『灰とダイアモンド』などで知られる巨匠アンジェイ・ワイダ監督で、ワイダが京都映画賞を受賞した際の賞金をもとに設立された京都クラクフ基金が中心的な役割を果たしました。建設にあたっては日本政府や JR 東労組も資金提供を行い、建物デザインは日本を代表する建築家・磯崎新氏が無償提供するなど、多くの日本人も関わっています。現在では、浮世絵をはじめとする日本の伝統美術を展示するだけでなく、日本の現代美術や文化紹介など多岐にわたる活動を展開しており、年間 10 万人が来館しています。

磯崎氏によってデザインされた同館の建物は、多くの日本の古典美術作品でモチーフとされてきた「波」を想起させる不規則な曲線で構成された屋根が特徴で、そのたおやかな曲線は、周囲のヴィスワ川の景観や庭園と調和しています。この建築そのものが伝統的な日本美術へのオマージュ作品とも言えるでしょう。2006 年に開催された"Polska. Ikony architektury"(「ポーランド ― 建築の偶像」)と題されたポーランドの建築コンペティションでは、1989 年以降にポーランド国内で建築された建築作品 20 選に同館が選出されています。

日本美術・技術博物館 Manggha と姫路市立美術館の連携協定

令和 6 年 10 月 16 日の姫路城・ヴァヴェル城の姉妹城提携に続き、同年 11 月 11 日に同館と姫路市立美術館の連携協定が締結されました。協定調印式には、調印を行った山田基靖姫路市副市長とカタジナ・ノバク日本美術・技術博物館長をはじめ、山下在ポーランド日本大使館広報文化センター長やインガルデン在クラクフ名誉総領事などのほか、故ワイダ監督の令夫人であり、同博物館の設立に向けてご尽力されたザフファトヴィッチ氏もご出席されました。この際に同氏からは、生前にワイダ監督が姫路城を訪問した際に自身で描かれた姫路城のスケッチ（複製画）を姫路市立美術館に寄贈したいとのお申出を頂き、それらのスケッチの複製は現在当館にて展示中です。

この協定の締結により、両館の所蔵品の相互貸借など展覧会開催における協力を通じて、両地域の芸術文化の交流を促進し、観光・国際交流・教育・産業その他の関連分野における連携を図っていきます。

問い合わせ先
姫路市立美術館　学芸課　米田、紅林
Tel: 079-222-2288 / e-mail: gakugei@city.himeji.lg.jp